

教育理念 「高い志 科学する心 未来を拓く力」



ローレル



県立日立第一高等学校  
附属中学校  
学校だよりNo. 52  
平成28年7月1日  
生徒数239名

教育目標：豊かな人間性と高い知性を有し、日本そして世界の未来を拓く次代のリーダーを育成する。



日立市天気相談所

校長 村田 一弘

皆さんの多くは、日立市民なので、日立市天気相談所というのを知っていると思います。私は以前から、どうして日立市は独自に天気予報を出しているのだろうと不思議に

思っていました。なんでも、日立市天気相談所は、気象業務法に定める天気予報業務許可を取得している最も古い団体で、許可番号は2番だそうです。(余談ですが、私は気象予報士を取得している最も古い人間で、登録番号は81番です。)

日立市は、もともと何もない寒村(日立村、助川村)であったのですが、日立鉱山とともに発展してきました。日立鉱山は、もともと赤沢鉱山と呼ばれる小さな鉱山でした。1905年に久原房之助が経営に乗り出し、本格的な開発を開始すると、明治時代末期には日本を代表する銅鉱山の一つとなりました。ちなみに、日立製作所は、この鉱山で使用する機械の修理製造部門が独立したのがその始まりとなっています。

当時は、技術のレベルが低く、足尾銅山を始め、あちらこちらの鉱山が公害を出していました。日立鉱山も、亜硫酸ガスによる煙害を出し、農林業に多大な被害をもたらしました。会社側は、その都度、保証金を出して解決を図りましたが、鉱山の規模が大きくなるにつれ被害も拡大し、山林がはげ山になり土砂被害が頻発したり、公害のために農民がよその土地に集団で移転したりしなければならぬような状況になってしまいました。

試行錯誤の末、日立鉱山は、1915年(大正4年)、当時、世界最高の高さとなる511フィート(155.7m)の煙突を立て、排煙を拡散させるとともに、気象観測所や観測見張所を設置して、煙害発生が予報される時は制限溶鉱を実施して排煙の量を減らす事に成功しました。現在、公害が発生すると、法律により企業は活動を停止させられ、多額の賠償金を支払わなければなりません。しかし、当時は法律が未整備で、しかも鉱山は軍需産業でしたから、日立鉱山は、被害者を力で押さえ込むこともできたはずですが、日立鉱山が高額な建設費をかけて煙突を建てたことは、企業、地域の人ともにWin-Winの関係になるすばらしい決断だったと思います。その後、日立鉱山の煙突は、町のシンボルになりました。

環境に配慮しながら、企業活動を続けるという現在では当たり前の哲学を、当時の日立鉱山の社長が持っていたこと、そして、日立市天気相談所は、その名残であることを、日立の学校に通う皆さんにも是非知っておいて頂きたいと思います。なお、この史実を元に、新田次郎さんが「ある町の高い煙突」という小説を書いているので、良かったら読んでみてください。

◆ 来月(8月)の主な予定 ◆

- 夏季課外：7/25(月)～7/29(金)、3年：8/1, 3
- 12日(金) 白聖ネイチャースクール(希望者)
- 29日(月) 放送による校長先生講話、第2回外部模試(第1日)  
給食なし(弁当持参)
- 30日(火) 第2回外部模試(第2日)  
給食なし(弁当持参)
- 31日(水) 給食なし(弁当持参)



☆市内総体ガンバル!☆

6月21日・22日は、天気にも恵まれ、市内総合体育大会を予定通り行うことができました。保護者の皆様にも、早朝よりお弁当の準備や送迎などお世話になり、ありがとうございました。お陰様で、各種目の会場では、チームが一丸となって戦う姿が見られました。

部活動名	結果	部活動名	結果
野球	準優勝0-1(豊浦中) 県北大会出場	女子ソフトテニス	順位決定トーナメント惜敗
サッカー	順位決定トーナメント惜敗	卓球	男子8位 県北大会出場、女子惜敗
女子バレー	予選リーグ惜敗	剣道	予選リーグ惜敗 県北大会オープン出場

《個人戦の結果》

- ・卓球男子…シングルス：有田 悠人さん、田山 恭丞さん、堤 亮さん 県北大会出場  
ダブルス：3位 宮下 悠汰さん、三上 徹さんペア 県北大会出場
- ・卓球女子…シングルス：福島 菜穂子さん 県北大会出場



◆ 県通信陸上及び県北水泳結果 ◆

- ・共通男子3000m：長谷川 嵩汰さん(3年) 県5位
- ・女子50m自由形：会沢 光咲さん(3年) 県北地区2位
- ・女子100m平泳ぎ：会沢 光咲さん 県北地区2位、鴨志田 真子さん(1年) 県北地区2位
- ・女子200m平泳ぎ：石川 海音さん(1年) 県北地区2位

◆ コンクール等に向けて がんばれ! ◆

吹奏楽部(県北地区コンクール7/17)、科学部、美術部においても、夏から秋に向けてコンクール等、これまでの取組の成果を発揮する場があります。運動部員など仲間の活躍を励みとしながら、上のステージを目指して活躍することを期待しています。



◆ 生徒会長語る ◆

6月27日(月)に、生徒集会がありました。そこでは、これまでの生活を振り返り、附属中生の身なりやマナーを再確認するための場が設けられました。生徒の力でよき姿、よき伝統がつけられていくことを願っています。



～ 校長先生、特別授業を行う! ～

市内総体の期間、学校に残った生徒に校長先生が特別授業(90分1コマ)を行いました。内容は、プロジェクトワイルド(校長先生はエデュケーターの資格をお持ちです)のアクティビティーの1つ「オーディア」をアレンジした環境問題についての学習です。

生徒は、校長先生の説明後、鹿やオオカミに役割分担をし、格技場を野山に見立てて逃げたり、捕まえたりと汗を流し、その結果得られた鹿やオオカミの頭数変動のデータをグラフ化することから、環境問題について考えを深めていきました。生徒の感想(気づき)の一部を紹介します。

- ・鹿に人間の都合を押しつけないでほしい。
- ・天敵であるオオカミも鹿が絶滅しないためには必要なのだと分かりました。
- ・鹿の個体数自体が「制限要因」になっていることと、オオカミと鹿がお互いに個体数に影響を与えていることに気づいた。

他にも、生徒の素晴らしい気づきがたくさん見られました。

